W391
N29

南樓隨筆

01H20204

国立国会図書館　タイトル『南楼隨筆』　請求記号 W391-N29

ガラス使用

雀

謂之

被錦雀 雀子之嫩者 曰……

也最肥 被錦雀 肥者

猶帶骨 丶丶黃丶漫多脂 其肉如錦之軟

爆竹異聞錄云 今人以紙搖筒中寔以

猶帶骨 宋子琴南爲

之雀子者肥

13.7.24
01W50704

鵲

鵲尼 野鵲 雖也 佛燈錄 世尊正傳道 鵲尼第十頂上

佛既說道鵲尼受 報告那提國王 白眉

国立国会図書館 タイトル『南楼随筆』 請求記号 W391-N29
ガラス使用

蜜

蜜脾唐李商隱詩花房子子雄蜂蛺蝶雌
白眉
注子子蜂也蜂之蜜甘如脾故謂之

雀

披綿雀 雀子之嫩者 日子子肥也雛
孕子者肥也
肥猶帶骨 子子萬子萬多 腊 披綿雀之肥也
其肉如綿之軟
白眉
披詩通印子兒猶帶骨 卵子孕通矣之

爆竹異聞録云 今人以紙捲筩中寘以某所以代也故亦呼爆竹 白眉

爆竹

容雞至南越高興縣多有似雞而五綵身上之毛有青黃赤白黑五色至則年豐 白眉

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』　請求記号 W391-N29
ガラス使用

秋雞

秋雞の秋月無声亦〻之類也　飲食

似鷺而頸無絲脚黄色者俗名鶴子　飲食

鷺

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』　請求記号 W391-N29
ガラス使用

即鸚哥有數種綠鸚哥出隴蜀而滇南交廣近海諸
地尤多大如烏鵲數百群飛南人以多鮓食 飲食

鸚鵡

犬食斑木蝟則死
白犬合小魚食必得惡病 飲食

狗

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』　請求記号 W391-N29
ガラス使用

砂病類傷寒　　嶺南砂病類傷寒　　壯熱惚

寒肢痛酸　　鸂鶒鸂鶒毛糞瘢　　酒調灰服勝

金丹

夫沙病者嶺南閩廣之地多有之矣乃溪毒砂毒水弩射工蝎短狐鰕鬚之類俱能含砂射人被其毒者則惚寒壯热一日就分解似傷寒加發之狀彼尖人法以手捫摸痛处用角筒入角以口吸出其砂外用大蒜煨搗膏封貼瘡口即愈諸毒長脛鰕鬚最毒其草治十死九其毒深入於骨若鰕鬚之狀其瘡類乎疔腫彼地有鸂鶒鸂鶒毛糞瘢灰服之勝於被毒病者

丹明方珠

鶴頂

鶴頂鳥大于鴨毛黑脛長腦骨厚寸餘內黃外紅俱鮮麗可愛

蕭涯勝覽

南樓隨筆

青精

サカキハ深山ニ生ス樹ニ冬青ニ類シテ葉更ニ長大ナリ冬ヲ經テ凋マズ又長葉ノ者圓葉ノ者鋸葉ノ者數品アリ夏月葉間ゴトニ數花ヲ生ス皆下ニ向テ開ク立出ニメ粗梅花ニ類シテ小ナリ故ニ或ハ葉ヲ去リテ瓶花ニ供シ十ツ梅ト呼ブソノ色微黄色ニメ光アリ九英梅ノ色ニ似タリ圓實ヲ結ブ南天燭子ヨリ小サク生ハ青ク熟スレバ黑シ以テ紫色ヲ染ムベシ本邦神祠ニハ必コノ木ヲ植エ或ハ林ヲ成ス又枝ヲ折テ神ニ供スル浮屠氏ノ幷艸ノ枝ヲ折テ佛ニ供スルガゴトシ實基本紀ニハ眞賢木榊木ト云フ日本紀ニハ榊ト云フ又龍眼木ト云フ

太和本艸ニ載スソノ榊ノ字ハ上古吉備公ノ製スル所四十八字ノ一ニシテ今俗莽艸ニ榊ノ字ヲ書スルト例ヲ同フス此木琉球ニハ山米ト云野麻姑ト云唐山ニハ青精ト云通雅ニハ烏飯樹ト云楊桐ト云中山傳信録ニ曰又有樹葉似冬青高丈餘花如棗子累々生如中國女貞子甘酸可食亦可染物作青蓮色名山米又名野麻姑當即青精也ト愚按スルニ青精ハ本ト南天燭ノ一名ナリ故ニソノ莖葉ノ漬汁ヲ以テ飯ヲ炊クヲ青精飯ト云青精乾名飯ト云法ハ本艸綱目ニ詳ナリ昔朱靈芝真人常ニコレヲ服ス人青精先生ト称スル因テ遵生八牋ニハ青精先生糝米飯ト云フ此木モ飯ヲ染ベキ故亦青精ト云同名異物ナリ通雅ニ曰烏飯樹一名楊桐非沈括所謂南天燭也烏飯樹結子黑可啖南天燭結子赤或老則有高節古今詩話曰烏飯名楊桐似小冬青非楊櫨也トコノ文ニ據ルトキハ李時珍古今詩話ノ文ヲ以テ南燭ノ下ニ引入ルハ誤レリト云フベシ

十一月廿八日

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』　請求記号 W391-N29
ガラス使用

スケトウ

佐州ニスケトウト呼ブモノアリ大口魚ノ類ナリ形相似テ赤キ環文多シ味ハ大口魚ニ劣レリ鰯ノ皮ノ色赤シ大口魚鰯ノ皮黑キニ異ナリ鰯ノ味ハ大口魚ニ勝レリコノ魚他國ニ産セザルノ意ニテ土人鮭鰒ノ字ヲ用ユ

東雲草為姑姑

カタクリハ天台山ニ生ス東北ノ高谷ニ生ス加賀ニ生ス形東為草ニ似テ淡綠色ニシテ紫斑ヲ点ス一茎ノ末ハ花ナレハ茎ノ末ハ一茎ニ生ス茎頂ニ只一花俯シテ開ク大サ山丹花ノ如ク花瓣狹クシテ反巻ク花瓣ニシテ突ヲ張ル雄蕊ノ形山為姑ニ同シテ大サ夏ニ入テ苗枯ル根白色長ク曲リ一ヲ為ス本草ニ所謂ル棠ノ如クニシテ粉ヲ取ル国俗ニ粉ヲ以テ方物トス故ニ色黑白ナリ水ニ浸シ搗テ濾シ去ル故ニ名ヲ以テ方味淡甘美ニ甚シ蛇ニ咬ミ傷ス生ノ葉ヲ搗テ敷ケバ速ニ治ス俗ニ云ク昔ハ吉野ノ山ニ多ク有リシ故ニ吉野ノ葛ト云ヒ後ニ吉野ノ山ニ多ク有リシ故ニ吉野ノ葛ト云ヒ後ニ

為姿似寒草者也ちりの大略の説に国為姿
根ぬか蒜と云り是ちりの山為姿ちりの根の形国こし
て寒為寒草の者の根の形の長きに異し故国為姿と
称しこれをちりの大略に寒草者うの真の山為姿と
ちの根ぬか蒜也一種と云ふ古説に隠民為
種の実に早蕨に状類蕨草と云ふ中ちりの粉
の蕨粉に類ふと故に云ふ玉孫の一名の早蕨を
多ケテカタリノ漢名とする所の後賞作ず今保山地方
にもちりの根の形状を詳に云ふに一茎上
除に四葉の生ずるり蕨長ここの実とり嫩ちりに葉
紀ふ者に云ふ葉或に八葉ちりの根の上に一茎の根ず
上に一花を開り四月蕨色也於今保色に蕨と申し

国実を採ず初に黒色熟り頭色也蕨色八其実
おこめがり四葉の全部下に垂ん氏の東鑑の玉孫蕨
生ず類項似紫河車蕨と云ふ矢に今ちりの根す許一茎
二年一茎ちる長ず闊サ三寸毎節有白鬚年久しき
ちい根長サ尺余及ぶり形状赤い蓮蕨に似り又
本草に図ふる所ニモヤ似ラ早蕨の名に府ふ中り銀
テ早蕨ヲ多ク出物トさやかろべ

二十九り

鍋蓋草　ナベブタウラ　書

崔不知

昨葉何艸考證

ツメレンゲ　筑後久留米ニテ屋根ノ瓦ト呼ブ　ハ草京
帰ニハ稽生ナレタル人家假山石上ニ多ク植ル也
ニハ瓦屋上ニタヽリ生スト云　其葉張直ニシテ嫩緑色
長サ三寸許闊サ本ニテハ三分許末漸ク細ク尖リ最厚
クシテ闊サ三分近シ　根ハ小ニシテ葉ノ基ニ多ク叢リ生ス　花も葉
花ノ如ク大低風蘭ノ形状ニ似リ故ニ花鏡ニ風蘭ヲ
謂テ本草本葉最短弱有数瓦松トシテ春伝叢葉
中ニ漸ク長穂ヲ出ス長尺余ニシテ本ニ未葉ナキ小花ヲ綴
ル土出白色大サ三分許形ケ佛甲草ノ花ニ似ル　木州
綱目ニ花ヲ言ハズ稚頃劉寄奴ヲ謂テ四月開碎小
黄白花形如瓦松トシテ以テミレハ小花ノ形状自知

和州ノ開キタル形アリ故ニ藕頃也ハ松ヲ作屋ト云又

ゴトシ花ゴトシ亦ハ佛甲草ニ同シ熟シテ苗根共ニ枯ル子熟シテ自ラ生ズ冬ニ至ルヲソノ枯莖葉ハ梢ニ類スルノ時ニ花ヲ開カレトモ時根ハ嫩苗ヲ多ク生ズ葉ハ三ツ叢リ生シテ金錢松ノ嫩葉ノ如ク松ニ類ス如莖如莖初生トキハカナビ艸ノ梢葉ハ鐵線ヒ嫩苗ノ葉ノ梢間ニ多クアリ生ズルノ時葉ハ艸ノ嫩苗ニ似タリ松類頗ル慈姑艸ヲ調テ形如瓦松トスル

十二月三日

ウキ、

ウキハ異ナル常ナノ海ニ産シテ大サ長サ一二尺ハ丸ク太ク性最鈍ナリソノ海上ニ浮ンデ漁人陸ヨリ鋼ヲカケテ引ヨセ口ヲ以テ脇ヲ切リ放ルニ動カズ又ソノキズモ亦久カラズシテ魚ト云伝フ余水戶ノ人菜名生菜等數人ニ訪ヒ曰ク海辺ノ漁人ハ皆一ツボウト呼ビ城市ニテハウキト呼ブ大和本草ニ谷ツテ二條トスルモノハ非ズソノ体扁ク淡黑色ニシテ処ニ大鰒ヲ鮮ヲ沙ヲ里頗ヲ故ニ吉ウキ、ザノノ称ツリハ長サ一間サヨリ微シ長ク尾ノ方ハ微シ廣クシテ鰹質ノ形ノ如シ目ハ白ク口ハフクシテ鯉ノ河豚ノ如シ皆ハ円ニシテ突ハ左右ニ小鰭アリ形鮟鱇ノ如シ

寄こ丸之宮ヨリテ流ヲ喫シ背ト腹ニハ尾ニ近シテ長
髭有各二ツ尾リ廣リ三ツ其ノ長サ短リ肉ヲ切テ故竜祈ニ類
スリ赤い大ナル出入ヲシテ菊花迄ノ如シ其ノ他美ノ尾
長ク事夏ヲ過ル出故ニ其時敵上ヲ秋ル此ノ尺
許リ大ナル事ヲ浮ブ久ク小シ其性好テ海面ニ浮ビ
睡ル漁人ソノ海上ニ睡ルヲ見テモリヲ以テツキ殺シ両
舟ヲ以テ夾ミ挾ミ水ヲ除リテ美ヲ舟ニツナギソノ
舟ヲ以テ白ケトシ伏美ヲ上ニノボリテ内ヲ切
去リテ腸ヲ面ル又カキヲカケテ岸ヘ引寄ス又漁人海
面ニ浮ブ見ル鳥賊魚体ノ如シ味亦
美ナリ其ノ生長スル地ヨリ四度ヲ故ニ皆身上骨ヲ
脱ル枯骨長ヲ過シソノ腸

長サ六尺余ニシテ百尋ト云フ コレヲ刻開キテ内織
物ヲ刺リ去リ又ルヲ以テ狀ケ毛氈ノ如シ百年三ヲ許表
ニ平滑ニシテ裏ハ草ノトニシテ雪花菜ヲ捲ニ附ル如
コレソ織物ヲ刺リ又ル痕ヨリ解ル事ヲ得ルトシ
酸味ヲ以テ食ル味生烏賊ノ肉ニ似テ脆シ生者ヲ切
テ皆片トシテ蒸ル或ハ焙乾スソノ大
ニシテ風乾スルヲ以テ四方ニ土産ヲ故ニ百年ヲ過ル所
其ノ堅シ痢疾味甘酸ニシテ食リ此ハ早ク用ユ小ク
又洩数ニ用又痔瘡灌腸ノ時平陽ニ用野ノ
大ハ癰疽ニテ全不食右用味醤蒸煮肉吸汁
ヲ進食ト云ヘリ江戸ニテハ之ヲ落切リ五味調
理シテ初ニ生ル食ヲ食ルヲ云ヒ生ラキ又ハ切ト云ヒ生鼻

通クノ骨白色ニシテ透明殆ンカフラ骨ノ如シ ニシテ其骨トナリ切ラ落花トナル 食ヲ求ムトキハ奥ノ方郡間伊郡
宮下爾ニテ小キノニガトヲ云シガイ 氷ノ方言ヲ教ヘシテ
毫ニ寒スリノ糧ヲ求ムル色甚ダ美ミテ 鶴形ノ如シ
美本 和古書ニ書クヲ云漢名未詳 山椒魚ノ
腹下ト色ハ淡イ淡い稿ナルベ 竹トナレバ其ノ位ニ食尾ニ尋復
又生ズ故ト云ヘ近キ位カレ 郭璞ノ説ニ腹内有眼
而童 脇胴与 彼馬勤 隙あ 鼎 トアレバ形状異
ナルノミナラズ 無脇胴 文 ら キ ニ 又 民 奥 之 来
東國ノ産ニテ 奥常ノ おこ 産セザル 後 た 和 本 州
ニモ載タリ 然ルニ 近 奇 ノ 西北 諸 州 ニ モ 往 ヘ 出 テ 名 ノ
方言ヲ 先 地 皆 見 ラ キ ま ん て う 知ラズ 只 其 ノ 形ノ

異ナルヲアヤシミテ 岡ヒラ ノ送リ 余尚ニ土地 羽根 南野
村生 某ニ ニ ヤ キ ま ん 事 ノ ラ ニ 見 ツ リ ノ 脇 ヲ 反 試セル
ルニ異ニテ 東國 ヲ ま ん ヲ ニ 異 ナ ラ ザ リ シ ト ニ ヲ 今 リ ノ
方言 等 ヲ 尤 ニ 記ス
ウキ、ヲクルサメト呼國 モ ラ リ 加賀ニ 雪ザメ 或 イ ニ ギ
サメト呼 豊後 佐伯ニ バ ラ ボ ラ ボ ラ ト ヲ 周防 山口 津浦 浦 尻
陸ニ バ ラ ボ ラ ト ヲ 越 ナ ル ニ ヲ 雪ナメト云 搗 ヲ 調 テ ニ
イサンメト云 丹後ニ ウナラニト云 若狭ニ 雪ララト云
越 為 敷 賀ニ 万 歳 奥 ト云 必 ニ 投 テ 出 同 国 ノ 後
人 イ グ ニ ヤ ト云 陸 奥 ま ん 放 ナ リ 豊 為 恒 見 浦 ニ ハ バ ラ
ボ ト モ カ ラ ボ ラ ト モ 云
寅 暦 十 二 年 午 年 春 丹 後 ニ テ 捕 ル キ

長五尺七寸五分 闊三尺 上下ノ鬣各二尺五寸
右昨年中捕る所の獣 長天闊七尺五寸 上鬣高三尺 下鬣高三尺
一ツ 天二尺五寸 高三尺五寸 体
口七歳年寄 右ハ前田野浦ニテ獲ル
長サ四尺五寸 闊三尺五寸 鬣二尺
口八年寄 十五ヶ歳ヲ越ス 獣 哭ニテ獲ル
長サ八尺 闊五尺 上鬣高三尺 下鬣二尺五寸
口九年 若年ハ浜ニテ獲ル
長九尺 年闊五尺 体 尾尺 体鬣各三尺 餘
目三寸 体 口七寸 体
口十年 捕ル闊千浦ニテ獲ル

長六尺 闊四尺
十二月六日 獵

天明四年辰三月廿八日 豊前恒見浦ニテ獲ル
長五尺七寸 闊一尺二寸 鰭一尺二寸
総身如骨堅クメ石ニ似リ 先年子 祝浦ニテ獵之
以上 諸国ニ多クアル所ノ石ニ似タル骨 国ノ人ハ石ト云ヒ
骨ト云ヒ ケン所ノ石ニ似タル骨ハ 或ハ 或ハ 或ハ
硬軟ナル 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ
ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ 或ハ

ハ 一名カミナリウオ 明和三年 伝ニ鄭ノ家ニ用ル 頭中
剣ノ骨ノ形 剣形ト 似タルヨリ 俗説ニ ノ剣 牡丹 概ネ
五寸ニ 伝ヘテ ノ方向ヨリ ニ 奥ニ 堅 鞘 沢
ヨリモ出来 新ニ 伝 ニテ 長サ 五寸

寛永十月既白ゝ出海ニ捕つり時必雷ゝ鳴り
般雷ノ声ゝ如くゝ之ヲハ多くかミなり云ふ三ヶ所
雷声ゝ時之ヲ鳴つ長サ七八寸形頭尾ゝ鯉ノ如
大ミヲ大概海鰻ニ似ゝ白色銀めゝ微紅ノ帯ゞ
サミ黒点ゝ捕ゝ鱗自ゝ脱しやすし生ゝ子ヲ生ゝ
ゝ食ヲ然ハ骨ヲ赤ク柔ナリ生ゝ子ヲ生ゝ
ミヲ吸ヒ口ヲ化石水ニ骨ヲ残ヘ弓ノ如シ又
塩乾ノ如ク長ゝ大ヲ乾ノ一堪寸
許明ゝ大サ分余ノ如ク鮮ノ如ク乾ゝ酒色表ハ食ノ声
つりわざノ如ク声高ク杖ヲ力ミヲ負ヒ又リ出ル付
雷鳴ゝ杖ヲ入ヲ尾ヲ火ノ如シ
ハ能ク焼ゝ蝋燭ノ如シ北戸録ニ鱸魚形長ク寸

仮ゝ有背骨宮作蓋ノ如餅大者竹曝作燭
有火ヲ云燭ト作ノ文リ三ヶ月ノ形狀異ヲ

黄精魚　関西

アマダイ伊予大ヲ　ミヲハ小ヲ　ヲコスナト云クツナト云ヲ
ソノ大ミヲ二尺　海ヲ　アマダイト云　カガミヲハ緋ヒ
クジダイト云西ヲ　ミヲハ　コビハト云　内餌トヌス上ヲ
トスイトヲリダイ　アヲダイ　ヒイトヒキダイ　ヒヲ播
ヲ　龍野　ミヲハ西品サス　アヲダイト云　又色赤ヲ水
戸ヲハイセダイト云　土人喰ヲ　沖ノ海ヲ　汐ヲ　秋ヲ
一説ニ小ヲハ色白ク長サ尺ニ盈ス　時ヲ味美品
トス　アマダイハ長サ尺ニ盈タズ色赤ク味劣ルアカリ

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』　請求記号 W391-N29
ガラス使用

ジナト云　後世方頭巾ニ充リ

綿兼児

サルダイカ井　市場ニテツヅラ比ツヅロ比云阿野ニテモツヅロ
ト呼ビ牛馬ノ糞トス　肥料ニ島京ニテスミラト云長崎
ニテモスミラト呼又スミレ或いクイスミレ比豊後白杵ニ
イビラト云薩州ニテスミナトニテ榊ル大田原村ニテヒン
ト云越后ニテウミコビイト云あ房ニテヘボロト云紀州ニテ
ズイヤラ比ブベラ比云
京野菜　壬生菜　碁石茶　高菜　長崎菜　紫蘇　所山芋
紫蘇ノ代リ狭長保保　長保保　一根　蕎麦ノ芽
紫ノ白ウメ　一根　長崎ニテ一茎ノ代リ八ツ頭ト云

抽ズ　十月ノ人洋上ニ穂ヲナシ花ヲ開ク麦門冬穂ニ似
テ花ハ白ク形モ赤ク似タリ六出ニテ細ク長サ五寸許淡
紫色中ニ一瑞アリ小ク色淡シ山ニ云数アリ色
淡ク上ニ黄蕊アリ葉ハ薄ク赤保保　赤保保　花
洋ニテハ宿ヲ活ハ半枯ノ如シ　雖ドモ中ニハ黒ク
蹴寿ヲ如シ　穂花下ニ垂ル　椒ノ形上
ハ下大長柄傘ノ如ク故ニ故ニサルダイガサトニハノ根
山蒜ノ如シ年久キニハ大ニシテ石蒜ノ如シ
十二月ノ十八

ウミヘケマ

二見　ニハカホケト云　載為敷賀ニハ水スイト云　丸茅

ミハイリザワラ又イリゾウラ共云サラウイ鑑ラウネテ
物ラ洗フモノ 竹ワラ共云 海ワタト云カ賀
本草ニハシミセルト云 薩州ニハコノカワケモノ波花
越中ニハ入ナカ入トス 又ハツミ百ヶ上ノ
喪屋ノスボシスリ多サナ洗 第ロシラ飾ノ如シ 内侍ニ浸
テ金瘡ラ洗フニ用ユ 今物屋ノモノ洗テ瘡口ニ塗
ル用ユ

シハヒトテ

紀州ニテシワシトテト云 又有ルコト云 阿波ニテシワト
云 常州 松山ニテデバケト云 又ガラコト云 陸奥ニテシ
ヤクヤクト云 又ラレバト云 安房ニテモ テレハト云 安房庫

ニテハ又テンツクモンツクト云 又ラヅンモヅン 尼云 肥州五
島ニテツナワトミト云 又肥前ニテホネツキト云 紙尚書
主治 足ノ焼存性 打撲有瘀血者ニ酒ニテ服セシムル
又生ノ粉ニシテ酒ニテ服スルトモ 又治ス 飲食
土人ノ数酒服シ胸痛ヲ治ス 瓶岩服ニテ疝気治
又淡赤白二種ノ紀

海膳

白ニ奥ノ仙臺ニテガゼト云 三河ニテカゼト云 備前冊
ノ名産ニテイカト云 播磨姫路ニテコヒヤノウロレスト云 土
羽根浦ニテドモリノウロレスト云
能登ニテ猫刺者ヲムマリカゼト云 奥ノ松前ニテ

黄細菊ノ名ヲカゼトヽ云　黒牡丹ノ名ヲ
製布仙黒ノ名ヲ云　園サキ許長サ七寸
許ニ開カヽメ元ヲ黒色ヲ上トス黄色ヲ中ト
ス赤色ヲ第ヲ下トス

泝曝

（ムヽ敷ヲ元ヲ布ニ敷ヲ黒ニテナ
ヒ黒ノ臙トス）

阿波備前ニテ二月ニ壹朋ニテ蔓ヲ
ノ黒川ニテモタワラゴト云雲ヲ
ワラトヽ云肥島ヲ言タワラト云
海苔ヲ両頭ニ物ヲサシテ乾ヲケタヲト云一頭ハカリニ乾ヲ
ヲ乾ヲリコ又カワラコトヽ云
肥嶋ノ産赤タワラハ生産ノ良産ヲイリコナラズ

牆狹

播ノ三ノ月ニテ山クラト云同井田大田ノ村ニテゾゾ
ロト云江ノ橋村ニテ山マノコギリト云但馬越ノ所ニテ
クルマクサト云筑前ニテモシツケグサト云
豫ノ吉田ニテ馬ノ口キリト云備ノ西大寺ニテスクモヒ
ツルト云
君草

ヲゴロクサ

八月開花五出毎出長ク許細実淺黄緑外
帯微紫色附中ニ黄白ノ五蕊ヲ長サ七許ニ近

夏ハゼノ木

江州羽根田ニテモナツハゼト云又クロボヒと云備前柏谷ニテいらががキト云勢州津ニテカスモノト云播州大田原村ニテアサナベト云又山ナスビヒと云赤穂ニテモ山ナスビト云林田ニテハスノ又トシボノカシラト云

楸梓

楸ハ樹皮粗クシテ堅ニサケメアリテ棟樹皮ノ如シ故ニ爾雅ニ大而皵ナルハ楸ト云皵ハ皮粗也黄白色紫熟ノ花ヲ開キ長角ヲ結ビ下垂シテ被莢豆ノ如シ故

ニ俗ニ木サンゲト呼ブ梓ハ樹皮皵ナラズ小白花ヲ開キ円實ヲ結ブソノ嫩芽ハ大ダ紅紫ナリ長ズレバ綠色ニ変ズ三四月遠望スレバ繁葉上ニ紫花開キ満山如ノ觀ルニ堪ヘタリ楸梓之名甚タ混淆シテ分ヲ明ニスベキ或ハ云フ一物ナリト或ハ云梓ニ角アリト。給ハ的從ヒ陳淏子モ梓ニ楚ノ俗ノ異云

かゝる惟鄭樵梓ト楸自異生ニ角ノ一言ヲ古ノ惑ヲ破ル言之トリ又爾雅ニ而皵楸ノ文ニ符ス故ニ稿君及先師皆ソノ說ニ從フ矣孫識餘曰詩定之方中有曰樹之榛栗椅桐梓漆是椅ト梓明唐本説文云椅梓也又云梓楸也似木而異名者誤矣六書故云梓似桐葉小於桐生子成佩今江南此物最多別有一種色黄而子花者實花為

艶繁密一望如霞殿花石榴花紅艷繁密一望如霞殿ト
曲盡其勝ト始ニ楸梓ノ名ヲ別ツ所以ナリ
六書故ノ引キ及ヒ別有一種白莢而多花者ト
云ヒ亦談ヲ莢ニ云ヒ梓ト云ヒ
ヲ知ラザルナリ而シテ其花紅
云モ梓ノ嫩葉ヲ認テ花トスルナリ本草東壁モ梓楸

序文ヒ

苦梓木ニ似テ
トリバハヒギヤウ
梓木トヲクヘキ
たこノアラズ

ノ形狀ヲ詳ニセズ只楸狀ニシテ
之楸線トヲリ此ノ莢ヲ指スナリ又梓ハ本草木ニシテ
印板用ヲ以テ手材ニ作ル然レトモ板ニ鏤ムヲ
上梓ト云ヒ一ツ是ハ宮上木ノ義ニシテ直ニ梓木ニ刻ミテ
ヲ梓ハ一名木王ト云ヒ例ヲ同フス○又黄金ハ五金ノ中ニシテ
第一貴シトスル故ニ五金ノ長トス因テ
高銅銀等モ亦第ニ金ト書カ如シ

有ル者ト云ヒ鑑ヲ金衣異ト云ヒ鑑ヲ金葉ト云
今本邦ニテ木ヒラヒヒヤト呼ブ扁柏ヲ貴トスル故ナリ梨
ニテ板ニ用ヒ梨棗ニ木也故
棗ニ上ヲト序文ニ書セハ直ニ二ツノ木ニ彫刻スルヲ云ヒ然ルニ梨棗
樹ニ刻ムヲ云フニ非ズ望蜀木ハ唐宋ヲ故梓材トナルナリ
洲南園史ニ棗木堅実ヲ刻ヲ宜シ唐北梨木ハ書ヲ坊ニ
用ル故程相伯毎刻人物書像四夢之トヲ云ヒ
ハ銀杏ノ用ト同書ニ見タリ
曰銀杏其本頗最佳作用園ニ
名書不失筆法ト

十二月廿二ヒ

庚山

京都九条通九条辺ニ京師ノ人ト赤甲ノ時ハ戸ヲ開シ窓ノ隙光ノ射ルトコロニ板或ハ席ヲ立ツレハ塔及松樹ノ影皆倒ニ現ズ人ニ怪シミヲ歎ルモノ多シ余モ亦嘗テ往テコレヲ見ル唐山ニモコノ事アリ五羅漢ノ塔影倒見尖反向門塔影開門則影從門鏁入其影倒見尖反向門塔相去甚遠決理之不可曉者何処ニ塔何處ニ窓隙而塔影未必入而未必倒也トヲハ設ケリ隙光ノ映ズルトコロ影皆倒ナリ故ニ庵室ノ天窓上烏ヲ畫ノ類北宮ルトキハ窓内ノ影反反ニ走ル烏北ニ行クトキハ影南ニ走ル行雲ノ影モ又然リ

昭ノ二見ルヘカラサルナリ

廿五日

小識暄邑近南関内有一小池百近晴見一騎倒影西岸水中北馳而過此所謂空中一大鏡水涵窓隙則轉映ニ小鏡也

張叔大

張叔大岳文集京師天寧寺塔殿門闥処觀之其影倒懸人以為異然沈存中筆談謂凡影入窓隙皆倒懸乃其常理如陽燧照物皆倒中間有礙故也紙窓也窓中其影隙窓而為窓隙所束則影与窓相違窓東則影西同為窓所束而皆倒無与陽燧一也

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』　請求記号 W391-N29
ガラス使用

モミヂ

モミヂトハ紅葉ト言シテ諸木霜葉ノ總称ナリ此ホホ名カヒルテノキト和名鈔ニ出葉立美ミテ軽手ニ似タル故名ノ異シテカヘテキトヨウ三ツ多ツ分ト讀メリ此ホハ秋葉語ホニ勝リテ美シ二月ノ花ニモ劣ラヌホハ故ニ紅葉名ヲ專ラ称ヘリ唐山ニテハ楓ノ字ヲ指テ霜葉ヲ賞シテ丹楓紅楓楓樹ナドハ詩ニ詠ズル故ホ和名ノ混ヲ花トモセンカ光氏安名ハ楓歟赤々

楓カ次テカヘテトハ別ズ然ル楓樹ハ直ニミテ高ク聳ヘホコリ昭ニ出スコレヲ白膠香トモ賣ハ蔴實ノ形ニ似テ棘利リ三ツ楓越トモ葉モ大ニシテ形三尖リ皆カヘテニ同カラズ異梅ズルニ故歟本艸ニ載スルコトハ楓樹ノ圖五葉ミテ兩對頗カヘテノ形狀直シ然ル秋葉

直雅ニ

晉

ノ深ク文ナル唐詩金粉ニ蕭疎士江有楓思陸鄴
之反旦度談也君官於戸府以直方不偏見高逸
倜傍古之賢人有遊色遊言之義然ルトモ二
室ニ周有楓樹馬与江南楓形ノ類想于其下
而作是詩以脫矣二三子正ヲトヲ云ヘ心ニ據トキハ楓樹
ノ紅葉楓樹紅方解ニ云フ知ンベシ然トハカヘテ別ノ
楓樹トモ云ヘ偽ニスト為ルヘシ楷ニ當ル說ハ悪

的里要加方中所用之筆兒面的以兒礼者蘭
人名曰設以扇武辣筆昂七葉之義也故今
有以賛休一名七葉一枝花也筆兒面的以兒礼

花其叶一根数葉、細弱不能自立而葉少於根外
蕚休則一根数葉、肥張而葉大於主幹花根之
形象亦自別則不當後以命名之偏舉而保為
一号又蕚休有金線童樓之名故以市中所賣之
金仙十朗代用若亦此芝蓉唐山之蕚休絶
不能未故市人私授甘松及蒼朮中棟出此根以
應名者而非真金線童樓即拳参根而蘭名
異見之多之傑者也則於篤見面的以見礼又何相
開我往見即作仲勝有トカテ系ヲ人呼アーウシキナ之
其苗分御於多見面的以見礼而未知其根形伝也
斯也可憾焉後之有志者若有到其地須諦視
以審真的否矣
文化戊辰之秋

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』　請求記号 W391-N29

ガラス使用

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『南楼随筆』 請求記号 W391-N29

ガラス使用